



防 ふくい災害ボランティアネット

効率よく人を現場に

被災現場にボランティアを送出すコーディネート業務を担うコーディネーターは、最近ばかりでなく、地域での研学会に力を入れている。理にかなった。現地入りした松森さんは「神戸の方に來てもらえたからどういったが、また福井で大災害があったら」と黒い海を見ながら危機感にさいなまれたという。この思いが自らを団体設立に突き動かした。

九七年、ロシア船舶カンカー「ナホトカ号」が県内の坂井市で座礁した。設立のきっかけは、九七年、ロシア船舶カンカー「ナホトカ号」が県内の坂井市で座礁した。設立のきっかけは、九七年、ロシア船舶カンカー「ナホトカ号」が県内の坂井市で座礁した。設立のきっかけは、九七年、ロシア船舶カンカー「ナホトカ号」が県内の坂井市で座礁した。

「ボランティアの「交通整理」を担うコーディネーターの養成から取り組んだ。志を持つボランティアが数多くいても、計率は、福井豪雨時に32%だったのが、今年一月末に急がされた。行政を密に連絡を取り、効率よく現場に人を送り込むノウハウを蓄積した。成果は二〇〇四年七月の福井豪雨の際に発揮された。手続きがスムーズに進み、通常二日はかかっていたのを一日で済ませた。手続がスムーズに進み、通常二日はかかっていたのを一日で済ませた。手続がスムーズに進み、通常二日はかかっていたのを一日で済ませた。

最近では、行政の委託を受けた地域の防災力向上に活動の軸足を移している。福井市で自治会に占める自主防災組織の組織率は、福井豪雨時に32%だったのが、今年一月末に急がされた。行政を密に連絡を取り、効率よく現場に人を送り込むノウハウを蓄積した。成果は二〇〇四年七月の福井豪雨の際に発揮された。手続きがスムーズに進み、通常二日はかかっていたのを一日で済ませた。手続がスムーズに進み、通常二日はかかっていたのを一日で済ませた。

中には93%にまで急上昇した。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。中身の充実が急がれた。

福井市をはじめ地域での研学会を週二回程度、今年だけでも百回以上開いている。非常用の食料や水を備えても平気でたんの横で寝るといった「自らを守る」とに対する認識の薄さは今も変わらないという。松森さんは「地域に組織ができて、結局に何をやるかが白紙の場合が多い。われわれが少しでも役に立ちたい」と話した。（福井支社報道部・渥美龍太）

効率よく人を現場に

糸魚川―静岡構造線(糸靜線)断層地帯の調査観測プロジェクトに参加する名古屋大環境学研究所付属地震火山・防災研究センターの鷺谷威准教授に聞いた。「大地震がいつ起きてもおかしくない。考えられる限りの準備が必要」と呼びかけた。

鷺谷威名古屋大准教授に聞く



蟹谷威准教授

可能な限りの準備を

は限りの準備を

の度合いの大きさが分かる。ただ、北部は断層が少いので約十三三年前にM8級の地震が起きていることが分かっており、エネルギーをため込んでる部分はある。

一方、牛伏寺断層が走る松本市のある中部は、横ずれ運動が起きておりエネルギーを広い範囲でため込んでいる。大地震が起きるだけの準備は大である。

牛伏寺断層を含む白馬川に一度の割合で起きてきた。たから規模はさぞおき、牛伏寺断層で地震がいつ起きてもおかしくない。

糸線緑は北部と南部が逆断層、中部は横ずれ断層で、どこまで走りと続きの断層と考えるか難しい。今の断層や摩擦の分布、力の加わりなど情報を収集している最中だ。現時点では考えられるいろいろなことが起こっていると思つて準備した方がいい。

(聞き手は社会部・広瀬和彦)

樹屋研究に至る「三井物産」定員見直し構想もあるといふが、時期はまだ未定。

ただ、活断層や被害想定も万能ではない。信州大理学部・塚原昭教授(地盤学)は、「四年前の新潟県中越地域地震でも活断層の存在が指摘されず、発生した地震を例に一つかつていて活断層帯だけでなく、その延長線上で周囲でも決して安心してできない」といふことを刺す。

その63「怖い内陸直下型」

三百人が市内二十一の指定救護所に駆けつけるほか、あらかじめ各救護所に備蓄する医療資機材を市によって最大の課題と定めて最大級の課題を高くした。市は市民意識の高まりで、千円を投じて〇二年に直下型地震などの被災想定をまとめたほかは、他の都道府県に先行した地震対策は横の強

化などに対応できるが、地震対策は県民いかにやってもうかがが大事。県危機管理防災課の土村正課長補佐は、啓発に重点を置く現状を、このように説明した。

能登半島
発

能登半島地震から八カ月。罹りさん(心)を派遣した。

糸魚川-静岡構造線 30年以内 確率14%

低い住民防災意識



長野県松本市内を走る牛伏寺断崖
(矢印) = 同市の中山丘陵上空で

東海、東南海地震などの海溝型地震が心配される中、活断層による内陸直下型地震の怖さも忘れてはけない。国は全国百十の主要活断層で地震発生確率を調べているが、今後三十年以内に大地震が起きる確率が14%（百年以内では40%）とタントツなのだが、長野県内を南北に走る「糸魚川―静岡構造線」だ。自治体も対策を急いでいるが住民の防災意識はまだまだ低いようだ。（社会部・赤川肇）

この構造線はいくつもの活断層から成り、国は十一年前に、長野県松本市を走る牛伏寺断層を含む区間で、数百年以内にM8程度の地震が発生する可能性がある」と発表している。

松本市は昨年、地元医師会の発案で、市独自の災害時医療救護活動「マニュアル（手引書）」を作った。今年九月の総合防災訓練では、救護所の

The map shows the Katsuragi River (糸魚川) flowing from the north (Japan Sea) towards the south. A red line, representing the Sagami Tectonic Line (糸魚川・静岡構造線), runs parallel to the river. Key locations marked include Nagano City (長野市), Utsunomiya City (宇都宮市), and Maibara City (三原市). The map also shows the surrounding prefectures: Nagano (長野県), Yamanashi (山梨県), and Shizuoka (静岡県).

二〇〇五年（二〇〇六年度）に活動の場所などを地区別に示した防災地図を全世帯に配ったが、地図の認知度は六割程度にとどまる。このため市は現在、自主防災組織を中心とした「防災と福祉のまちづくり」を推進している。十二月から市民向けの啓発講座を始め、市内全地区を巡回する予定。総合防災課の所地基晴・防災まちづくり担当課長は「普段の地域の交流合いは災害でも役立つ」といっている。

内陸直下型地震

東海3県の対策

県内14カ所調査終える 三重
耐震診断無料化も検討 岐阜

震の被害予測を実施した二〇部 同確率は〇・〇〇一％）で、最大で県内の死者は約二〇、三〇年度に震度分布を試算した。高浜市や西海市、碧南市などで最大震度6強になる予想した。

しかし防災危機管理課は「猿投・高浜に限った特別な対策はとていない」としており、一年度中に国から入る、すでに内陸型にも力を入れたアクションプログラムの作成しており、大きく対策を見直すことはできない」と冷静に受け止める。

また、国の被害想定は死者、無料化を目指す動きもある。おり、来年度から耐震診断の費用、

中斷層に断層層が集まる「谷」といふ。知多平島を走る。険地帯。中部で内陸直上型地震が起き易い場合、愛知県を中心に最大で、万人を超える死者が出るのを試算を十一月に国がまとめたばかりだ。

愛知県は、豊田から西尾市にかけての狭猿・高浜断層帯（今後二十年の地震発生確率はほぼ0%）が引き起こす地震について東海・東南海地震（同確率はほぼ0%・0.6%）と在り山地震断層帯東部（同確率はほぼ0%・0.6%）を「両断層にいてはまあ分かるまい」と話した。

筆者、桑名、四日市断層帯、なないとも多く、対策は「両断層にいてはまあ分かるまい」と話した。

愛知県では東海地震だけでなく内陸型の直下型地震にも備えて、実施を進めてきた。二〇〇四年度に県内の四つの主要断層で地震が発生した際の被害想定調査をしており、

店主とNPOがタッグ



⑦
之さんは長期的な支援にはど
う取り組むべきか、情報を集
めた。そのアンテナに引っか
かったのが復興サロン。松田

商店街の復興

と復興について話す。加藤さん＝石川県六水町で



そのころ、五月の連休は、仮設住宅への入居も終わり、ボランティア活動も一段落し、三月の発生直後から現地入りしていた名古屋市のPPO法人「レスキューストークヤード」も一度は引き上

「役場が何とかしてくれれば、二から三自分たちがやる」へ住民の意識は変わった。十一月三日のシンポジウム。復興サロン世話人会代表の加藤真さん（右）は「空き地や空き店舗をなくし、震災前より活気ある街に。川をきれいにし、ほろどくつるげるようにする。商店主一人一人が観光客を含めて、その商売分野のエキスポパートになる」と十年後に目指す街の姿と行動計画を発表した。

そして、松田さんも「がれきを片付けた後のことも考えるボランティアが増えほしい」と思いを新たにした。

（北陸本社報道部・高橋雅人）